

ワーク・ライフ・バランス ワークライフインテグレーション

WLB と WLI の使い分け

注目トピックス

01 | WLB と WLI の使い分け

ワーク・ライフ・バランスは「働き方改革」という言葉とセットで扱われてきましたが、近年では「ワークライフインテグレーション」という新しい考え方が注目を集めています。

話題のビジネス書をナナメ読み

04 | プチ哲学 (中央公論新社)

「哲学」は難しい。うさんくさい。役に立たない。そんな今までの常識を打ち破る哲学書。キユーートなイラストと明快な解説で、哲学をもっと身近に、もっと楽しく感じさせてくれる一冊をご紹介します。



社会保険労務士法人 未来経営より

03 | お問い合わせについて

04 | 近況報告

WLB と WLI の 使い分け

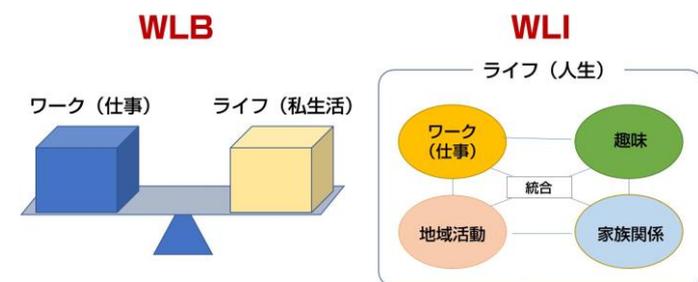
近年ワーク・ライフ・バランスと比較して「ワークライフインテグレーション」という言葉が生まれ、注目を集めています。その違いと、実際の職場への適用について考えます。

はじめに

ワーク・ライフ・バランスは「働き方改革」という言葉とセットで扱われてきましたが、近年では「ワークライフインテグレーション」という新しい考え方が注目を集めています。

定義

ワーク・ライフ・バランス(以下 WLB と表記)という言葉が「仕事」と「私生活」を対局のものとみなし、両者の量的なバランスを保つことの重要性を表したものであることに対し、「ワークライフインテグレーション(以下 WLI と表記)」は仕事も人生の一部とみなし、「職業人」「夫婦・家族」「地域コミュニティ」「趣味」などの人生の各活動を相乗的に良くなるよう統合していこうという考え方を言います。



WLB の概念においては、仕事と私生活は「量的に」バランスを取ることが重要視され、残業することや有給休暇を取れないことが私生活の時間を減らすものとして問題視されます。つまり、WLB の考えに即した労務管理とは、仕事時間や仕事負荷を減らす施策のことを指すことが多いでしょう。

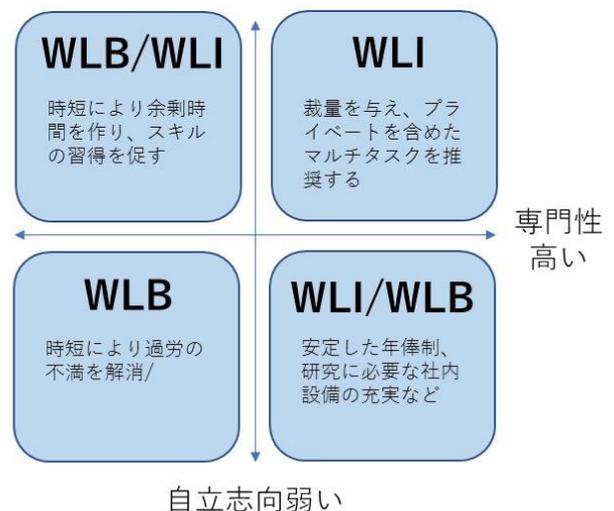
一方で WLI の考え方では、仕事と私生活は相反するものではなく統合されるべきものであるため、単に労働時間を減らせばよいというわけではなく、「時間の使い方」の裁量度と「結果や成果」に注目すべきでしょう。

	WLB	WLI
評価指標	労働時間の短縮/有給休暇取得率/育児休業の取得率など	時間裁量の程度/結果・成果/様々な活動のシナジー(相乗効果)
実践例	時短勤務、ノー残業デー、有給休暇取得促進、男性の育児休業取得	育児施設の併設、遊興設備への投資、副業解禁、裁量労働制、成果給導入、社内独立制度など

労働の代替性と個人の価値観

WLB と WLI はどちらが優れているという問題でなく、人や環境に合わせて適切に使い分けていくべきでしょう。一般的に、代替性の高い単純労働であれば WLB、専門業務には WLI の考え方が合いそうです。また、個人の価値観も影響します。自立志向が強く、好奇心の高い性格の人には WLI 的な考え方が適合するでしょうし、保守的で変化を嫌う性格の人は WLB の方が心地よいと感じるかもしれません。次のマトリクスを参照しながら、最適な管理手法を探っていくと良いでしょう。

タイプ別の WLB/WLI 労務管理マトリクス
自立志向強い



自立志向弱い

プチ哲学

佐藤 雅彦 著

単行本：154 ページ

出版：中央公論新社

価格：648 円（税抜）

はじめに

「哲学」という言葉でネット検索をかけると、まず初めに難解な用語や理論が目に入ります。次いで哲学に対するネガティブなワードもすぐに見つかることでしょう。そんな遠い存在に思えがちな哲学という学問を「考えることって、たのしいかも」と表現しているのが本書です。

自分の時間

時間厳守というのは社会人にとって最優先で守らなければならない大切なルールではないでしょうか。社会人に限ったことではないかも知れません。大人も子供も時間の流れは共通です。

では、自分の時間を守っているという人はどのくらいいるのでしょうか。朝はアラームで強制的に起床し、毎日決まった時間の満員電車に乗り、帰宅後は誰が決めたでもないリーティーンをこなして眠りにつく。もちろん、仕事や人間関係によって、どうにも変えられない時間の使い方というのはあります。問題はそれ以外のところで

「自分の時間」で人生を送っているかどうか

当たり前のことを今更、と思う方もいるかも知れません。ですが哲学とはまずは考えてみることに。改めて自分の時間の使い方について向き合ってみませんか？

未来の自分から逆算しよう

このページでは「時間がなく急いでいる人がエレベーターに乗ろうとしている。真っ先にエレベーターから降りられるように1番最後に乗る」というイラストが描かれています。こちらもちよっと考えれば当たり前なことだとすぐに気付きますが、ではなぜこのような行動が取れるのでしょうか。

「機転が利くから」や「エレベーターに乗り慣れているから」という理由ではありませんよね。

大切なのは「最終結果をイメージし、そこから逆算して行動を組み立てること」だと筆者は言っています。

エレベーターの例は短期的な話ですが、1週間や1ヶ月、あるいは1年間だったとしても考え方は同じです。最終的なゴールを明確にイメージできていれば、先行きが見えない中で手探りするよりも、ずっと効率的に歩みを進めることができます。

新しいことばかり追いかけない

競争の激しい今の世の中で、自社のサービスや商品を勝ち残らせるためにどんな工夫をするのでしょうか。とにかく目新しい取り組みにばかり注力してしまうかも知れません。しかし、既存の仕組みを利用した画期的な方法の模索にもエネルギーを使ってみましょう。

「アイデアとは既存の要素の新しい組み合わせ以外の何物でもない」とある有名な実業家も言っています。本質的にはその通りですよ。

既存の仕組みを利用して新サービスを提供するのは、大幅なコストカットや時間短縮に繋がる可能性が高いこともポイントです。ここまでの内容を振り返ってみると、凝り固まった思考をリセットし、日々のちょっとしたことを深く広く考え直すことが哲学であるとも言えますね。「考えることって、たのしいかも」の言葉通り、様々な観点から哲学の入り口に触れることのできるオススメの一冊です。



当事務所からの お知らせ

労務管理や助成金などのご相談がございましたら、お気軽に当事務所までお問い合わせください。

当事務所へのお問い合わせについて

今回の労務の達人はいかがでしたか？

次回も充実した内容でお届けしていきますので、よろしくお願いいたします。

なお、今回の内容に関して、ご不明点やご依頼などございましたら、お気軽にお問い合わせください。

社会保険労務士法人 未来経営	
代表	高山 正
所在地	〒390-0874 長野県松本市大手 4-6-4
営業時間	平日 8:30~17:30
電話	0263-32-2002
FAX	0263-32-7684
メール	info-sr@mirai-keiei.net

スタッフよりあいさつ

こんにちは、未来経営の小倉です。

早いものでもう12月、雪の便りももう届くころでしょうか。こんな寒い季節には家でゆっくり音楽鑑賞なんていうのもいいものです。私は昔からレコード（LP）を収集するのが好きで、今でも家ではレコードを聴きます。最近では若い人でもレコードを聴く、なんていう方もいるようで、レコードプレイヤーを新たに求める人もいると聞いています。昔の物の良さ、アナログの良さが見直される、そんな原点回帰があるのかもしれないね。

学生時代に通ったレコード店を思い出します。学生ですので買える枚数が限られており、「今日はどれを買おうか」と一心不乱にレコードの入った箱を漁っていた青春時代でした(笑)。松本界限にも何店か昔ながらのレコード店がありますので、覗いてみると新たな発見があるかもしれませんね。今度の休日に久々にレコード店巡りをしてみようかな。

